

## 上川郡中央医師会

### 定期総会開催

上川郡中央医師会  
北海道医報通信員 水野清司

上川郡中央医師会は、春たけなわの4月16日に第58回の定期総会を開催した。

会場には久しぶりに会員各位の元気な姿に接し会談。

定刻開催、委任状も含めて23名が出席して盛大に開催された。

椎名会長から昨今の医療を巡る厳しい環境の中で今後も会員とともに地域医療の再生に向けて会務を遂行していきたいと挨拶があった。

引続き議案審議に入り、平成19年度の事業報告ならびに収支決算、平成20年度の事業計画および収支予算案など議案第4号までを滞りなく活発に検討、了承を得て可決承認された。

今年は医師会役員の任期満了による改選期であったが、一部異動に伴う役員の補充人事を行ない、他は留任となり、道医師会関係の会務分担委員も一部を変更して医師会活動の充実を図ることになった。

事業計画では日本医師会生涯教育の一環として行なう学術講演会の開催や救急医療体制の強化の一環として救急医療部会の加藤委員、木下委員から医師会会員の救急処置、救命治療の研修会や救急医療器具の設置について提言があった。

総会終了後の懇親会は藤本副会長の乾杯で始まり、多数の会員が参加されたこともあって和気あいあいに親睦を深め話し合いながら、木下副会長の締めで無事閉会した。

任期満了により改選再任された役員氏名は次のとおりである。

会 長	椎名 弘忠		
副会長	藤本 達哉	木下 透	
理 事	浅井 基典	館花 明佳	
	藤原 正文	加藤 一哉	
	村住 和彦	斉藤 英明	
	相馬 光宏	吉田 泉	
監 事	水野 清司	小池 台介	

## 寿 都 医 師 会

### 医療町民フォーラムの開催について

寿都医師会長 秀毛寛己

‘もし、黒松内に病院が無くなったら’をテーマとした町民フォーラムが4月19日(土)黒松内町民センターにて開催された。主催は、黒松内の医療を考える会(代表:茂尾公晴レインボー歯科クリニック院長 後援:黒松内町)。町内在住の有志による医療問題研究会を今年1月より立ち上げ、ボランティアの実行委員会を組織し、約10回開催し当日に何とか滑り込んだ。昨年10月および12月の北海道新聞に黒松内町国保病院の記事が取り上げられたことを契機に町民の間に医療機関の存続についての近い将来への危機感や救急体制への不安が改めて顕在化し、町行政側主導ではなく、自発的な町民サイドよりの自主開催となったことは、まず評価に値する。当寿都医師会の事務局を置く病院の存続を巡る問題についてのフォーラムであり当病院ナース2名と事務職員2名も実行委員や事務局として参加した。フォーラムは、当町以外の参加も多く約160余名の参加者を数え、土曜日の午後の晴天ならびに参加への個別要請



を一切しなかったことなどを考えると関心の高さを物語っていると思われた。なお、清水美智夫北海道厚生局長のご一行と北海道医師会より宮本慎一副会長、中村雅則次長、武藤雅弘次長に遠路ご来町いただき盛会となった。

フォーラムは午後2時より4時半までの2時間半で三部構成。第一部でパワーポイントを使い現状の医療機能や実態を分かりやすく説明。二部ではコミカルな読み合わせ寸劇で地域の医療をめぐる諸問題をとりあげ、第三部はトーク形式で前沢政次北大教授と高橋雅俊倶知安厚生病院長をゲストコメンテーターに迎えて町民代表2名の斉藤和博黒松内協働作り推進委員長、高木晴光ぶなの森自然学校長、計4名で司会の茂尾委員長とのやりとりが行なわれた。

実行委員会では、当初よりこの地域医療フォーラムを継続して行なうことを計画し、第一回目の今回